

さくら第560号

令和8年 8月

さくら

発行所 さくらそろばん
 発行者 平瀬 重雄
 春江町境 17-7・Tel51-1337
 hirase@mx2.fctv.ne.jp



『身につけた計算力』

「三つ子の魂百まで」ということわざがあります。ここでいう「三つ子」は昔の数え年の3歳なので今の満年齢では2歳ごろを指します。

「魂」は性格や精神、「百」は長い年月、すなわち一生を表しています。つまり、幼少期の体験や環境により身につく心のあり方が大人になっても基本は根本的に変わらないことを示しています。

このことは平安時代中期に書かれた「源氏物語」の中にこれについての記載があります。筆で書くことや囲碁を打つということは不思議なもので、生まれ持ったものがあるということが書かれており、三つ子の魂百までになったといわれています。

中国では「三歳看大、七歳看老」といい、3歳のときの様子を見れば大人になったときの様子が分かる。7歳のときの様子を見れば年老いたときの様子が分かるといえます。

そしてまた誠実さ、精神的安定性、協調性といった性格の特性は、18歳から25歳の間に大きく成長する傾向があると言われています。

さくらそろばんには幼稚園児から中学生、高校生、大学生、そして一般の大人までが練習をしています。日々接していると普段の行動からどのような気持ちでその時々での練習を重ね、友達や周りにいる人たちと関わっているかの一端を垣間見ることがあります。

検定試験が終わると、合格したか否かを知りたいと思うのは本人はもちろんですが、友達なども気になります。やがて試験の結果発表となり1人ひとりに可否と種目ごとの点数と内容

を告げます。

不合格の人には点数の良かった種目を褒め残念だった種目へのアドバイスをし、気持ちを切り替え次回への挑戦をすすめます。

ある合格者への発表をすると近くにいた6年女子が「おめでとう」と笑顔で言えば、その子は「ありがとう」とまた笑顔で答えます。

ちょっとしたひとと言と笑顔を受けた人は表情が明るくなり、晴れやかな顔で席にもどります。時間にすれば数秒のできごとですが、周りの空気を和やかにし、あたたかな気持ちにさせます。このような場面を見届けると、とても嬉しい気持ちがずっと続きます。やる気がアップし次へのチャレンジにつながるひと言です。

このようなこともありました。トイレへ行った男子園児が気になり見に行くと、その子はピカチュウのデザインが入った小さなスリッパを履いたまま、腰をかがめて小さな手で大人用のスリッパをそろえています。

思うにその子は動く時に大人用のスリッパに当たってずれたのでそろえていたのでしょう。そこで、「ありがとうね。きとんとそろえてくれて。えらいね」とひと言話すと、にっこりして出ていきました。このような場面に出会うととても嬉しくなります。

採点中に次の番を待っている女子が答のやり直しをしている子に小声で、「がんばれー」と励ましていると聞いたその子はちよつとうなづきながら真剣にやり直しています。

園児から高校生まで年齢差のある室内での練習のなかで交わす言葉やしぐさは千差万別ですが、それぞれが自分の居場所のなかで力いっぱいがんばる姿はいいものです。

かつて通塾していた子が大人になってまたそろばんを弾く姿は格別です。そろばんコンクールに今年も参加すると意気込んで練習にも熱が入ります。計算しながら今日はミスが少なくたくさん計算できたので利口になったといいながら指先に神経を集中します。その昔に身体で覚えた計算力は今もなお確かなものです。30数年前の練習が今に生きています。

一、二匹
 ひき
 鮎も
 かかりぬ
 白網

季語
 鮎(夏)
 五十嵐
 播水

白い網を川に入
 れて待つてい
 ると、鮎が一、二匹
 かったことだ。